

茨城の 土地改良

発行所

茨城県土地改良事業団体連合会

水戸市宮内町3193-3

電話 029-225-5651(代)

FAX 029-225-5239

編集兼発行人

山口 武 平



表紙 第10回農業農村フォトコンテスト入賞作品
「常陸秋ソバ」撮影場所／常陸太田市 木村 節男(日立市)

目 次

第29回全国土地改良大会が京都府で開催	2
21世紀土地改良区創造運動関東地方大賞受賞～水土里ネット新利根川～	3
平成19年度農業農村整備事業概算要求額	4
平成18年度市町村・改良区等管理のポンプ機器点検、小整備標準単価表	4
農業基盤整備資金の金利改定について	6
「史跡めぐり疏水百選ウォーキング2006」の開催	6
「水と土と農キャンペーン」の実施	7
創造運動TOPICS(新利根川・石岡台地・玉造南部・七郷中川・本新の各水土里ネット)	8
水土里ネット探訪vol.8(岩崎江堰土地改良区、桜川土地改良区、鶴戸沼土地改良区)	11

第29回全国土地改良大会が京都府で開催

第29回全国土地改良大会・京都大会は、10月10日(木)午後1時から京都市にある国立京都国際会館で開催され(全国土地改良事業団体連合会 野中広務会長、愛称：全国水土里ネットと京都府土地改良事業団体連合会愛称：水土里ネット京都が主催)大会テーマ「おこしやす 歴史有むふるさとへーいにしへの時空(とき)を超えて 今 伝えたいことがあります～」のもと、全国から土地改良関係者約4,300名が集い、農業農村の重要性と農地や土地改良施設の管理者である「水土里ネット」の役割を広く国民にアピールすることはもちろん、地域住民の意向と環境への配慮など新たな視点に立った農業農村整備事業の展開への方向を示した。

式典では、土地改良事業功労者や21創造運動大賞の表彰等恒例行事の他、沢田敏男京都大学名誉教授の文化勲章受章が披露された。

21土地改良区創造運動の創設から4年目になる今年度の21創造運動大賞受賞地区については、

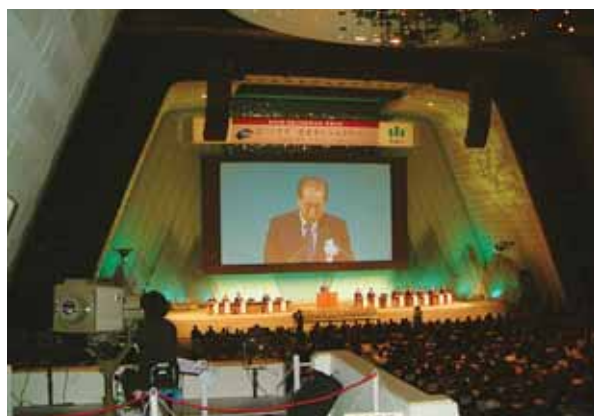
全国から12の水土里ネットが表彰された。

土地改良事業功労者表彰の部では、農林水産大臣賞が6名、農林水産省農村振興局長賞が17名、全土連会長賞が47名の計70名が受賞した。

本県からは、下妻市高道祖土地改良区理事長笠嶋和良氏が全土連会長表彰を受賞した。

次期開催県紹介として、第30回全国土地改良大会の開催日と場所については、平成19年10月24日(木)三重県営サンアリーナにおいて開催されることが決定し、大会旗の引き継ぎが行われ、次期開催県水土里ネット三重の挨拶があり「かなでよう水土里の三重奏 のこそう心のふるさと」を紹介した。続いて、今大会の成功を祝し、併せて、第30回三重大会が盛大に開催されることを祈念して万歳三唱が行われた。

最後に、水土里ネット京都府副会長が閉会挨拶として大会が無事、盛会裡に終了した御礼・感謝のことばで結んだ。



平成18年度 21創造運動大賞

受賞地区	都道府県	副題
水土里ネット北見	北海道	地域創造プランナー
水土里ネット稲生川	青森県	歴史交流イノベーター
水土里ネット胆沢平野	岩手県	地域の輪クリエイター
水土里ネット長野堰	群馬県	歴史伝承プロモーター
水土里ネット亀田郷	新潟県	地域創造エキスパート
水土里ネットえな	岐阜県	世代の輪クリエイター
水土里ネット宮田用水	愛知県	都市との共生フロンティア
水土里ネットしんあさひ	滋賀県	水質保全チャレンジャー
水土里ネット板名	徳島県	水辺交流プランナー
水土里ネット古高松	香川県	ため池環境チャレンジャー
水土里ネット一の宮	熊本県	流域連携プロモーター
水土里ネット高千穂	宮崎県	資源の守人パイオニア

21世紀土地改良区創造運動関東地方大賞受賞 ～水土里ネット新利根川～

21創造運動表彰については、平成15年度に創設され4年目を迎えた。

21創造運動大賞の候補の推薦については、地方農政局毎に設置されている「21世紀土地改良区創造運動地方大賞地方選考委員会」において行われ、この委員会において決定された地方大賞のうち、特に優れた運動を展開している水土里ネットが21創造運動大賞となることになっている。

本県からの関東地方大賞には、平成18年度に初めて「水土里ネット新利根川」が受賞した。

水土里ネット新利根川は、平成15年10月より『21世紀土地改良区創造運動の取り組みについて』土地改良区が主体となり「地域と共にするづくり」をテーマに茨城県、水土里ネット茨城、旧東町役場、東町自然有機農法生産組合、花卉類生産者、水土里ネット新利根川で協議を重ねた結果、旧東町が平成13年度より観光目的で推奨していたラベンダーと水土里ネットの抱えていた問題（旧用水路用地の管理、ゴミの不法投棄）を融合させ、「水土里ネットふる里づくりinあずま」と称し、フラワーロードづくりを中心に創造運動の取り組みがスタートされた。

この活動の目的は、土地改良区が主体となって「地域と共にするづくり」を実践しており、旧用水路用地及び遊休地の有効利用により地域の活性化を図ることや水土里ネット新利根川の果たしている役割と土地改良施設が農業以外の効果として、多面的機能を有していることを広く一般住民（非農家、子供達）に理解してもらえるようフラワーロードづくりを通じてPRを行っている。

今回、関東地方大賞地区は、次の4水土里ネットが決定され、21創造運動大賞候補として中央選考委員会に推薦される地区には、昨年度関東地方大賞を受賞し、さらに継続した創造運動を展開している水土里ネット長野堰とともに水土里ネット新利根川が、中央選考委員会推薦地区になったが、惜しくも今年度は希望かなわず捲土重来を期待することになった。

【関東地方大賞地区】

水土里ネット新利根川……………(茨城県)
水土里ネットまちやば……………(群馬県)
水土里ネットうえのはら……………(山梨県)
水土里ネット長野県善光寺平……………(長野県)

【中央選考委員会推薦地区】

水土里ネット新利根川……………(茨城県)
水土里ネット長野堰……………(群馬県)

昨年度地方大賞受賞



平成19年度 農業農村整備事業 概算要求額

(9,025億円(対前年度比 118.5%))
 8,623億円(対前年度比 118.5%)
 (7,509億円)
 うち「重点5分野」7,107億円

(注) 上段()書きは、平成18年度予算額には地域再生基盤強化交付金措置額、19年度要望額には同措置額に対する概算要求基準に基づく要望額を含む。

(単位：百万円、%)

事 項	平成18年度 予算額 ①	平成19年度 概算要求額 ②	対前年 伸率 ②/①
農業農村整備事業 (うち農村振興局)	(761,829) 727,829 710,116	(902,514) 862,280 841,294	(118.5) 118.5 118.5
(農業生産基盤整備)	444,537	543,616	122.3
1. かんがい排水	229,223	272,997	119.1
うち国営かんがい排水	197,483	230,623	116.8
うち基幹水利施設ストックマネジメント事業	—	4,000	皆増
2. 経営体育成基盤整備	80,010	96,050	120.0
うち農業生産法人等育成緊急整備事業	—	1,000	皆増
3. 諸土地改良	9,812	34,980	356.5
うち農地・水・環境保全向上活動支援事業	—	25,588	皆増
4. 畑地帯総合農地整備	50,189	63,845	127.2
5. 国営農用地再編整備	19,423	12,675	65.3
6. 機構事業	27,457	31,960	116.4
7. その他	28,423	31,109	109.5
(農村整備)	155,872	172,856	110.9
8. 農道整備	36,127	41,009	113.5
9. 農業集落排水	20,940	24,284	116.0
10. 農村総合整備	9,427	7,017	74.4
11. 農村振興整備	37,695	45,845	121.6
12. 中山間総合整備	40,555	43,328	106.8
13. その他	11,128	11,373	102.2
(農地等保全管理)	127,421	145,807	114.4
14. 防災保全	109,413	127,754	116.8
(1)直轄地すべり	1,800	2,160	120.0
(2)国営総合農地防災	44,290	45,256	102.2
(3)農地防災	43,159	54,055	125.2
(4)農地保全等	20,163	26,283	130.4
15. 土地改良施設管理	13,451	13,230	98.4
16. その他	4,557	4,824	105.9

注1：百万円単位に四捨五入のため、計が合わない場合がある。

注2：上段()書きは、18年度予算額には地域再生基盤強化交付金措置額、19年度要望額には同措置額に対する概算要求基準に基づく要望額を含む。

平成18年度 市町村・改良区等管理のポンプ機器点検・小整備標準単価表

小型：φ300m/m以下で低圧受電のポンプ機器

中型：φ350m/m～900m/mポンプ機器（電気機器を除く）

表－1 点検診断

【台数単位】

台数 形式	1 台	2 台	3 台	4 台	5 台	6 台	摘 要
一 般	31,000 ^円	46,000 ^円	61,000 ^円	81,000 ^円	102,000 ^円	122,000 ^円	7 台以上は 1 台以上に付20,000円増加
水 中	25,000 ^円	37,000 ^円	49,000 ^円	65,000 ^円	82,000 ^円	98,000 ^円	7 台以上は 1 台以上に付16,000円増加
比 較	0.5	0.75	1.0	1.33	1.67	2.0	

表－2 小整備(グラウンドパッキン取替及び油等で材料代を含む)

【台数単位】

台数 形式	1 台	2 台	3 台	4 台	5 台	6 台	摘 要
両吸込	31,000 ^円	46,000 ^円	61,000 ^円	81,000 ^円	102,000 ^円	122,000 ^円	7 台以上は 1 台以上に付20,000円増加
片吸込	16,000 ^円	23,000 ^円	31,000 ^円	41,000 ^円	52,000 ^円	62,000 ^円	7 台以上は 1 台以上に付10,000円増加
比 較	0.5	0.75	1.0	1.33	1.67	2.0	

表－3 割引率

同時割引 (点検＋小整備)	2 割引
閑期(6月～11月)	2 割引

注1. 本単価表は土地改良区等が県内のポンプ代理店・特約店と委託点検を実施する場合の県内統一単価とする。

2. 水中ポンプの引き上げ及び点検整備は別途見積契約とする。

3. 一般とは陸上機場の総称とする。

4. 閑期(6月～11月)に行う場合、又は点検診断と小整備を同時に行う場合は割引とする。

5. 全体総計額千円以下は切捨てる。

委託契約料の算出(例)

(例－1) 口径250m/m両吸込ポンプ(一般) 3 機場(3 台)の場合

(1)点検診断のみ 表－1 より 61,000円

(2)(点検診断＋小整備)の時

表－1 表－2 同時割引

$$(61,000 + 61,000) \times 0.8 = 97,000 \text{円}$$

(例－2) 口径150m/m水中ポンプ 2 機場(2 台)の場合

(1)点検診断のみ 表－1 より 37,000円

(例－3) 下記5 機場(実施時期 5 月)の場合

区 分	契約内容	第1 機場 両吸込 1 台	第2 機場 水中 1 台	第3 機場 両吸込 1 台	第4 機場 片吸込 2 台	第5 機場 両吸込 1 台	計	摘 要
		点検診断 —	点検診断 —	点検診断 小整備	点検診断 小整備	— 小整備		
点検診断	一 般	1 台 円 20,200		1 台 円 20,200	2 台 円 40,500		円 89,000	3 機場(4 台)表-1より 81,000÷4 百円止
	水 中		1 台 円 25,000				25,000	1 機場(1 台)表-1より 25,000 円 百円止
小整備	両 吸 込			1 台 円 23,000		1 台 円 23,000	円 46,000	2 台 表-2より 46,000÷2 百円止
	片 吸 込				2 台 円 23,000		円 23,000	2 台 表-2より 23,000 円 百円止
同時割引		—	—	(43,200 × 0.2) 円 —8,600	(63,500 × 0.2) 円 —12,700	—	(割引) 円 —21,300	百円止
差 引 計 (千円止)		円 20,200	円 25,000	円 34,600	円 50,800	円 23,000	※ 円 153,600	円 ≒153,000(千円止)
※ 閑期割引		6月～11月の場合は上記金額の2割引きとする。					153,600 × 0.8 ≒ 122,000	

農業基盤整備資金の金利改定について

財政融資資金金利が改定されたのに伴い、農林漁業金融公庫が貸し出す農業基盤整備資金の貸付金利が、平成18年10月19日付けで下記のとおり改定されました。

記

(単位：％)

区 分	改 定 前 (H18.9.21)					改 定 後 (H18.10.19)				
	融資期間にかかわらず	融資期間別 (一例)				融資期間にかかわらず	融資期間別 (一例)			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	2.05	—	—	—	—	2.05	—	—	—	—
団体営補助残	1.90	—	—	—	—	1.90	—	—	—	—
非 補 助	1.90	—	—	—	—	1.90	—	—	—	—
災 害 復 旧	—	1.40	1.55	1.85	1.90	—	1.45	1.55	1.85	1.90

「史跡めぐり疏水百選ウォーキング 2006」の開催



備前堀用水



柳 堤 堰

去る9月30日(土)、薄曇りで時折陽が射す中、水戸市内で「史跡めぐり疏水百選ウォーキング 2006」が、水土里ネット茨城（茨城県土地改良事業団体連合会）主催により、総歩行距離約6kmの行程で行われました。この「史跡めぐり疏水百選ウォーキング」は、地域の歴史的財産をめぐることにより、土地改良施設等の重要性に対する認識と農業農村の多面的機能に対する理解を地域住民の方々に広く深めてもらうことを目的としています。

ウォーキングも今年で4回目を迎え、今年度は、全国の疏水百選地区に本県から選ばれた2地区のうちの1地区、備前堀ウォーキングをメインとして開催致しました。来年度はもう一つの疏水百選地区、つくばみらい市の福岡堰をメインとする「史跡めぐり疏水百選ウォーキング」を開催する予定になっています。

参加者受付が終了すると、主催者代表の小嶋専務理事のあいさつに続いて、一般参加者・スタッ

フ含め約60名は3班に分かれ、午前9時30分に水戸駅南口をスタートしました。

前半は、情緒あふれる備前堀用水をメインとして、後半は水戸市の歴史を感じさせるいくつかの史跡をめぐってウォーキングを行いました。前半の見学ポイントである備前堀用水の起点である柳堤堰で、堰の概要としくみを水土里ネット千波湖（千波湖土地改良区）職員から説明を受け、参加者は熱心に聞き入っていました。

その後、しだれ柳の美しい備前堀右岸を経て、江戸時代初期に備前堀用水の工事を行った道明橋上の伊奈忠次像の前で、水戸市公園緑地課職員から配布資料を見ながら備前堀の歴史・伊奈忠次の経歴等の説明を受け、参加者それぞれが熱心に聞き入るとともに、備前堀の風情を満喫していました。

後半は、備前堀左岸を上流に戻り、「黄門さま」で有名な徳川光圀公生誕の地、水戸城薬医門、そして光圀公の大事業であった大日本史編纂の地、

徳川斉昭公により創設された弘道館を經由して水戸駅北口に正午前にゴールし、アンケート提出の後参加者それぞれが満足して帰途につきました。アンケートによると参加者の約半分は、はじめての方々であり、残り半分の方はウォーキングにかなり経験のある方で、それぞれ水戸市の広報誌・ウォーキングクラブの紹介等により参加されたという調査結果が出ました。また、コースの中で印象に残った場所は、大多数の参加者が柳堤堰と備前堀用水を挙げ、疏水百選地区に選ばれた備

前堀用水は、治水と利水を兼ねたかんがい用水の役割を担うだけではなく、その景観により地域の住民に憩いと安らぎを与えてくれる場であることもわかりました。

最後になりましたが、今回のウォーキングに際してスタッフへの参加、広報誌への掲載、資料の提供及び土地改良施設の説明等に快く応じてくださった水戸市並びに水土里ネット千波湖の方々には厚く御礼申し上げます。



備前堀用水（伊奈忠次像前）



水戸城薬医門

「水と土と農キャンペーン」の実施



展示パネル

去る8月19日(土)20日(日)の2日間に亘りつくばエクスプレス万博記念公園駅周辺特設会場において「水と土と農キャンペーン」を実施しました。今回の参加は、つくばエクスプレス開業1周年記念イベント「つくばスタイルサマーフェスター知と自然の協奏」に出展という形で行い、農業農村整備事業のPRを行いました。

19日には水土里ネット南筑波の協力を得て地元取れたての新鮮な野菜を、20日には水土里ネット土浦市外十五ヶ町村の協力を得て地元特産物を来

場者にそれぞれ配布し、好評を博しました。又、ブース内の「農業農村広報パネル」をヒントにクイズを行い、来場者に農業農村整備事業の役割を広く知ってもらうことができました。

ゲームコーナーでは行列ができるほどの人気で、両日併せて当ブースへの来場者は約800人にのぼり、他の出展ブースに負けない程の盛況ぶりでした。

最後に今回、多大なるご協力をいただいた水土里ネット南筑波、水土里ネット土浦市外十五ヶ町村の役職員の皆様方には、厚く御礼申し上げます。



ゲームコーナー



創造運動 TOPICS



東町自然有機農法(田植え・稲刈り祭り)と土地改良施設見学

～水土里ネット新利根川～

平成18年5月14日(日)に東町自然有機農法主催によるはじめての田植え祭りが行われ、東京都杉並区から参加者51名のみなさんがやって来ました。フラワーロードに隣接する水田で田植えが行われ、小さな子供から大人まではじめての田植えに楽しく参加しました。田植え終了後、近くにある土地改良施設(金江津排水機場)を見学してからフラワーロードに植えてあるラベンダーを見ながらバーベキューを行いました。

9月17日(日)に稲刈りが行われ、大型バス2台約100名のみなさんが参加して下さいました。春の田植えに参加してくれた方もはじめて参加する方も一生懸命稲刈りをしました。



土地改良施設見学



田植え



稲刈り

「小美玉市ふるさとふれあいまつり」に参加

～水土里ネット石岡台地～

水土里ネット石岡台地では、去る8月26日に開催されました「小美玉市ふるさとふれあいまつり」に、土地改良区の紹介をかねて参加いたしました。

小美玉市ふるさとふれあいまつりは、昨年まで「美野里町ふるさとふれあいまつり」として毎年開催されていたものが、市町村合併に伴う小美玉市(旧美野

里町、旧小川町、旧玉里村）に引き継がれ新しく開催される運びとなったものです。水土里ネット石岡台地では美野里町ふれあいふるさとまつりの時も含めて4回目の参加となります。模擬店での

販売を中心として、国営事業で作られた揚水機場、パイプライン設備のパネル展示をはじめとして、畑地整備のリーフレットの配布などを行いました。



模擬店



パネル展示

田んぼ（水田）の調査隊

～水土里ネット玉造南部～

今年も7月27日に地元手賀小学校（子供会）を中心に、昨年参加しなかった地区の子供達に参加してもらい、田んぼの調査隊・隊員（27名）を任命し、隊長の指示のもとに調査に入りました。

土地改良施設への理解を深めながら、田んぼ・水路・ため池等の生きもの調査と水質調査を実施し、生き物の名前を調べ隊員（子供達）が観察しました。

谷津田の上流にため池（農業用水）・下流に用水

機場が有り、その区間（約4 km）生きもの調査しながら約3時間かけて調査しました。隊員は田んぼ・水路にいたアメリカザリガニ取りに夢中になり、調査するのを忘れるほどでした。隊員が後日ザリガニ、魚取りをする場合は親と一緒に指導し、隊員も「田んぼ」に興味をもってもらえたと思います。

今後は、地区を変えながら田んぼの調査隊を実施しながら、隊員を増やしていきたいと思っています。



では出発しま～す。



ザリガニ取りに夢中

七郷中川「ひまわりの郷」を開催

～水土里ネット七郷中川～

8月6日(日)、七郷中川(ななごうなかがわ)地区は場内(坂東市)において、今年で3回目となる、七郷中川「ひまわりの郷」が開催されました(七郷中川「ひまわりの郷」実行委員会主催)。これは、農業・農村の重要性に対する認識を高めるとともに、生産者が消費者ニーズの把握・収集に努め、安全で高品質な農作物の安定生産と販売促進を図るものです。

当日は、晴天に恵まれ、朝早くから大勢の方々が15畝の“ひまわり畑”を訪れ、花のつみとりなどをおして、田園風景を楽しみました。

また、ひまわり畑中央のイベント会場では、七郷中川土地改良区生産者組合により地元七郷中川産のコシヒカリの無料配布をし、その他坂東市の特産品の直売、岩井農協による野菜の直売など、各種団体の協力により多数の催し物を実施いたしました。

当水土里ネットでは“七郷中川のさかなたち”と題し、当水土里ネットで管理する水路にいる、メダカやドジョウなどを水槽に入れ、写真と特徴を説明し、子ども達がめずらしそうにながめていました。



「本新地区内堤用水路大清掃及び生き物調査」開催

～水土里ネット本新～

10月14日(土)、本新地区管理体制整備推進協議会主催で、21世紀創造運動の一環として昨年に引き続き本新地区内堤用水路大清掃及び生き物調査を開催しました。参加者は本新土地改良区、稲敷市、小学校、地元消防団、地域住民で、内堤用水路の草刈りやゴミ拾いを行いました。生き物調査では内堤用水路を川干しし、

子供たちも最初は遠慮がちでしたが、最後は泥だらけになりながらも魚捕りに夢中になっていました。

本地区では内堤用水路は非常に重要な水路であり、その水路の状況を地元住民によく知ってもらう事ができました。この活動は今後も継続していく予定です。





◆岩崎江堰土地改良区



理事長 小林 元夫

所在地：茨城県常陸大宮市南町1104番地の4 TEL0295-52-0250
 受益面積：752ha
 受益地：常陸大宮市、那珂市
 組合員数：1,860名
 理事：14名 監事：3名
 総代：52名 職員：3名

土地改良区の概要

本地区は、県東北部に位置し、北は常陸大宮市小貫より、南は那珂市門部までの久慈川沿岸の水田752haの地域で、地形は水田標高30.02mより下流13.50mに寄る標高差16.52mを有し水田勾配は概ね平坦にして台地より久慈川に向い上流部で1/1000下流部で1/2000前後、地質は久慈川沖積地帯、北部は第三紀層、凝灰岩質有岩、粘土質岩等、北域部及中流部は第四紀層の壤土に属し那珂市瓜連下流部は第四紀新層推壤土に属している、久慈川沿岸は砂質を含み排水良好で、地下水は高く久慈川に向い低い、概ね地表に併行して差異はないが平均10m～20m内外である。

用水源は1級河川久慈川より $Q=2.5\text{m}^3/\text{s}$ 取水、幹線用水路延長約23kmにかんがいし、瓜連木崎第一揚水機場は、 $Q=0.333\text{m}^3/\text{s}$ 取水を本改良区の幹線用水路まで導いている。又、下流地区では排水路より反覆利用ポンプアップの揚水機が4ヶ所ある。

組織の沿革

親藩水戸の徳川頼房が奉行望月五郎左衛門の進言により永田茂衛門に命じて正保2年(1645)岩崎江堰を考案させた。慶安元年(1648)に起工し茂衛門親子の指揮監督に基づき、苦難を重ねて遂に承応元年(1652)完成し、藩命により永田家が代々水積役となっていたが、その後大江守が任命され明治初期までその管理下にあったが、明治23年水利組合法公布により明治24年(1891)12月岩崎江堰普通水利組合、大正11年(1922)11月通水不良のため瓜連木崎地区が脱退し耕地整理組合、大正15年7月郡役所廃止に伴い管理者が常陸大宮市(旧大宮町)となり、その後昭和24年土地改良法公布され昭和25年12月1日認可番号茨城第8号として岩崎江堰土地改良区が設立された。

改良区設立と同時に県営農業水利改良事業が認可され総事業費17,200万余で頭首工、導水暗渠、隧道工、サイホン工、幹線用水路の一部改修を完了した。

昭和42年度より県営かんばい事業、団体営かんばい事業が認可され年々着工幹線用水路延長17,146m、支線用水路11路線延長12,197mのコンクリート舗装を昭和47年度に完了した。

久慈川の流心の変化と河床低下により、堰体からの漏水が発生し取水に支障をきたしてきた岩崎堰は、現堰の改修が急務となり県営かんがい排水事業岩崎堰地区の事業計画が昭和63年度確定し、頭首工1ヶ所、用水路工L=813.6m（工事費4,679,000千円）を平成12年度に完了した。

平成3年度より県営圃場整備事業玉川下流地区

が着手となり常陸大宮市下村田、那珂市下大賀74haが整備され、（工事費1,365,328千円）が平成12年度に完了した。

併せて、玉川堤防改修、国道118号線改修、那珂久慈流域下水道事業が行なわれた。

平成12年度より県営畑地帯総合整備事業門部坏・下河原地区が着手となり那珂市鹿島（旧瓜連町大字鹿島）、那珂市門部（旧那珂町大字門部）坏・下河原41haが整備、関連事業として県道常陸那珂港山方線、湛水防除事業が行われている。



岩崎江堰土地改良区事務所



岩 崎 堰

◆桜川土地改良区



理事長 飯田 稔

所在地：稲敷市堀之内573 TEL029-894-2803

受益面積：247ha

受益地：稲敷市（旧江戸崎町、桜川村）

組合員数：436名

理事：13名 監事：3名

総代：30名 職員：1名

土地改良区の概要

当土地改良区は、小野川河口右岸から霞ヶ浦湖岸に拓けた東西に7kmと細長い水田とその背後地の谷津田を含めた稲敷の穀倉地帯で小ぢんまりした地域であり、道路は、国道51号線と国道125号線を結ぶ県道新川～江戸崎線（広域農道）が、地区を横断し比較的めぐまれている。地形は、北部を

霞ヶ浦、南部をYP20.0mの小高い台地に挟まれた勾配（1／1000～1／100）標高（YP1.14m～YP9.80m）となっている。

管内は、稲敷市（旧江戸崎町、旧桜川村）であり、水源は、低位部は、霞ヶ浦に求め三次、飯出、古渡、大坪、羽生の各機場により高位部は、深井戸5機場よりパイプライン方式よりかんがいして

いる。排水は、低位部の各機場に排水機が設置され機械排水している。

土地改良区の沿革

当土地改良区は、昭和20年初めに、年々の水害や干害を憂い、古渡地区、三次地区、飯出地区に土地改良区を設立し揚水機場、築堤等を施行し、水害や干害から農地を守りため共同で管理していた事が今日の土地改良区の基であり、昭和46年に霞ヶ浦総合開発整備事業が、国に於いて着手され後に、昭和48年11月に、古渡、三次、飯出の3改良区が解散し、桜川土地改良区の発足と共に県営圃場整備事業も採択になり、組合員の皆さんの願いが叶い、6年の歳月をかけ昭和53年3月に完成を見た。その後、平成元年に新農業構造改善事業、



桜川土地改良区事務所

平成7年に県営かんがい排水事業、平成16年に新農業水利システム保全対策事業等により排水路工事が施行され、さらに用水関係は、県単事業、維持管理適正化事業等で施行された。又近年背後地の開発が進み住宅からの雑排水等の問題があり、県営水質保全対策事業、農業集落排水事業等により施行され現在に至っている。



幹線排水路

◆鵜沼土地改良区



理事長 鶴見 福蔵

所在地：坂東市長谷4614-3

TEL0297-35-0063

受益面積：472ha

排水流域面積：5,309ha

受益地：坂東市、猿島郡境町

組合員数：1,370名

理事：20名

監事：6名

総代：60名

職員：5名

土地改良区の概要

本地区は、茨城県南西部に位置し、坂東市、猿島郡境町にまたがる利根川に沿う西部地域とそれから北西に向かい台地間に深く介入している狭長

な東部地域からなっている。地区標高はYP6.2m～YP8.5mで4000分の1勾配の平坦な地区で土壌は肥沃である。

気温は年平均14℃かんがい期22.5℃降水量は年

1200mmかんがい期510mm程度である。

用水は全地区パイプラインで漏水は無く効率的である。平時の排水は利根川への自然排水であるが洪水時は機械排水をしている。排水流域面積は5,309haで機械排水能力は毎秒34トンである。

基幹作物は水稻。現在は東京まで40kmという立地条件に恵まれ野菜の生産が盛んで特にレタス、夏ネギは全国的にも大産地である。地区内幹線道路は舗装道路で農作物運搬も円滑である。

土地改良区の歴史及び最近の事業

当土地改良区の起こりは嘉永年間に関宿藩による鵜戸沼干拓に遡り、当時は利根川に堤防がなく失敗に終わった。明治後期には古河地方から下流坂東市小山地先まで利根川堤防工事が完成し、再び干拓の気運が高まり大正初期に地元有志間で鵜戸沼耕地整理組合創設が企画された。しかし干拓賛成派と反対派が対立するようになる。大正から昭和にかけ度重なる戦争により食料不足が深刻となり、政府は食料確保政策として昭和15年農地開発法を制定施行し、農地開発営団を設立した。鵜戸沼周辺住民は積極的に干拓運動を進め、その熱

意が実り農地開発営団採択となった。昭和17年排水機場の建設に着手。その後順調に事業は進捗したが昭和22年9月14日カスリーン台風の襲来により利根川堤防が決壊し、干拓事業で造成した施設を一瞬にして失ってしまう。農地開発営団も昭和22年9月30日閉鎖されたが昭和22年10月1日国営鵜戸沼(採択名は「森戸」)干拓建設事業として引き継がれた。またその間に干拓賛成派と反対派の対立も収まり、一致団結した「鵜戸沼干拓期成同盟会」が昭和24年3月に結成され事業を強力に推進した。昭和29年基幹的土地改良施設の完成を以って同年6月26日組織改編された「鵜戸沼土地改良区」が誕生した。

その後の主な事業は、昭和36年まで県営鵜戸沼干拓建設付帯事業、昭和39年～51年団体営事業、昭和42年～46年県営湛水防除事業、昭和55年～平成6年県営圃場整備事業、平成2年～平成12年県営2期、3期湛水防除事業を実施した。平成13年からは県営田園空間整備事業、平成16年からは基幹的土地改良施設補修事業を実施、進行中である。また、毎年土地改良施設維持管理適正化事業を実施し、施設の良好な維持管理に努めている。



野菜産地



湛水防除機場と幹線排水路